

SSH活動報告

東京都内SSH指定校 合同発表会に参加

12月19日(日)に東京都内SSH指定校合同発表会がオンライン開催されました。本校からはリモート口頭発表6件、ポスター27件の成果を報告しました。口頭発表者の小泉君・藤井君から発表や研究に関する感想をいただきました。



オンライン発表中の小泉君

研究テーマ「廃棄食材を用いた酸性土壌の改善」

3年10組 小泉 幸輝

私は高校生活で多くの研究や発表を行ってきました。研究では失敗を繰り返し、成功するにはどうすれば良いのかを考えました。また発表では、どのようにすれば相手が楽しく、興味を持ってくれるかを考えました。今回の発表は高校生活3年間の集大成であり、完璧な発表をできるように心掛けました。緊張していつも通りの発表ができず少し心残りがありましたが、とてもいい経験になりました。課題研究を経験して、充実した3年間を送ることができました。この3年間で培った多くのスキルは一生消えることのないものなので、今後大学や社会に出た時に活躍できるようにしていきたいと思いました。

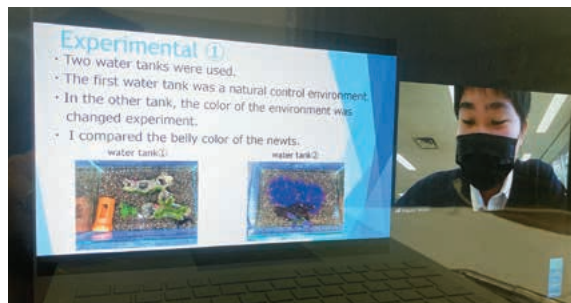
研究テーマ「消費期限による菌の増殖」

3年10組 藤井 武

課題研究を進める上で、実験に関することを調べてまとめることが大変でした。初めて触れることを自分で理解するのは困難でした。しかし、自分の知らないことを知って実験に生かしていくこと、なぜ実験結果がそうなったのかを考えることは大変でしたがとても楽しかったです。今回の研究発表会では、自らの研究を見る人にわかりやすく、伝えることの難しさを感じました。実験方法や考察を言葉だけでなく、図などを使って見る人にわかりやすく伝えることができたと感じました。質疑応答では発表の至らなかった部分を指摘され、とても勉強になりました。

タイ・プリンセス・チュラポーン・サイエンス・ ハイスクール・トラン校との共同研究

今年度の課題研究では、タイのプリンセス・チュラポーン・サイエンス・ハイスクール・トラン校と6件のテーマで共同研究を実施しました。それぞれのグループが月に一度のペースでオンラインミーティングを実施し、結果を報告し合い、研究を進めました。12月17日・20日にはタイとオンライン共同発表会を開催し、両校の生徒の前で成果を発表しました。以下、共同研究に参加した野口君・近藤君の感想です。



野口君のオンライン発表PC画面

研究テーマ「アカハライモリの擬態」

3年10組 野口 匠

共同研究を通して英語の大切さを知りました。今まで日本語でしか発表したことがありませんでしたが、共同研究ではお互いの発表や質疑応答など、すべてが英語で行われました。自分の研究を英語に訳すことや、相手の発表を的確に理解することなど、とても大変でした。特に大変だったのは、質疑応答です。相手の質問を正確に聞き取り、なおかつその質問を英語で返すことが一番難しかったです。しかし、タイの人たちと意見交換をしたことで、その国でしか見られない生物を使った実験や、その国独自の考え方や見方があることを知ることができました。この貴重な体験を生かし、今後は英語力を高め、国際的に活躍できる人になりたいです。

研究テーマ「食材による抗菌について」

3年10組 近藤 洸輔

相手にわかりやすく伝えるためのパワーポイントや原稿を作製することや、英語で与えられた質問に対して、聞き取って答えることがとても大変でした。しかし、タイ・プリンセス・チュラポーン・サイエンス・ハイスクール・トラン校との共同研究を通じて、英語で相手に伝える経験をすることができました。以前は、英語や英会話の授業でしか英語を話す機会がありませんでしたが、共同研究では、Zoomでのやり取りの難しい部分もあったものの、英語でコミュニケーションをとることができ、英語で相手に伝えることに以前よりも慣れることができました。

その他の 共同研究テーマ

「炊飯時の水の量における接着力」 鈴木 愛理

「砂漠緑化を可能にする吸水性ポリマー土壌の作成と評価」 常森 允道

「メダカの適正生殖温度と稚魚の成長」 長見 海音

「ミミズと土壌の関係性」 大村 隼人